

しまねの河川と海岸だより

20周年記念特別号

発行：島根県土木部河川課

❁ 目次 ❁

◆ 発刊にあたって	P 1
◆ 21年間を振り返って	P 1～
◆ 21年間の主な出来事	P 3～
◆ 平成13年から21年間の歩み	P 11
◆ おわりに	P 12



JR山口線・名賀川
「災害復旧助成事業」
(津和野町)



第二浜田ダム
(浜田市)



北浦海岸
(松江市)



意宇川
八雲遊ゆうこいのほり
(八雲町)

【新型コロナウイルス感染拡大防止のため】

・3密（密閉空間・密集場所・密接場面）を避けましょう！



【発刊にあたって】

「しまねの河川と海岸だより」は、ちょうど 21 世紀に入った平成 13 年 1 月に、当時の島根県河川課長であった塚本隆富氏が、島根県の河川情報を県内外に発信すべきとの思いで発刊されたのが始まりで、20 年以上が経過した今でもこの思いは引き継がれ、途中災害等により、発行の頻度が減ったものの、21 年間ほぼ毎月発行し、発行回数は 246 回にのぼりました。

これも、ひとえに「塚本氏の思いを途絶えさせてはいけない！」という歴代河川課長の責任感と、塚本氏の存在の大きさを物語っているのだと思います。

1 年遅れとなりましたが、ここに「20 周年記念号」として発刊します。

河川課長 杉谷 博之



しまねの河川と海岸だより 第 1 号

～ しまねの河川と海岸だより発刊以降の歴代河川課長 ～

平成 11 年度～14 年度 塚本 隆富 氏	平成 22 年度 岡 正志 氏	平成 29 年度～令和元年度 星野 充孝 氏
平成 15 年度～16 年度 伊藤 康幸 氏	平成 23 年度～24 年度 滝本 孝志 氏	令和 2 年度 今岡 幸延 氏
平成 17 年度～18 年度 森山 裕夫 氏	平成 25 年度～26 年度 平田 知昭 氏	令和 3 年度～ 杉谷 博之 氏
平成 19 年度～21 年度 宮川 治 氏	平成 27 年度～28 年度 田中 悟 氏	

歴代河川課長が繋いでいった思いを後世にも繋ぎます！！

【21 年間を振り返って】

この 21 年の間、河川行政の考え方は様々に進化・多様化し、平成 9 年の河川法改正により「治水」「利水」に「環境」が加わり「多自然型川づくり」が加速化し、緩傾斜護岸が主流になりました。

また、事業実施に必要な法定計画は、「河川整備基本方針」と「河川整備計画」に姿を変え、「工実」（「工事実施基本計画」）や「全計」（「河川改良工事全体計画」）といった古い冊子は棚の奥へと追いやられていきました。

治水事業予算は平成 10 年度頃から年々減少し、近年は国土強靱化予算によりやや持ち直したものの、一時はピーク時から半減するなど事業推進には厳しい状況が続きました。

治水対策も「総合治水」から「流域治水」へ、その考え方も「防災」から「減災」へと変わりました。

そしてこの間、県内でも様々な出来事がありました。平成 12 年の中海干拓事業の中止に続き、平成 14 年には宍道湖中海淡水化が中止され、事業の後始末が完了した平成 26 年に、本格着手から約 50 年の歴史が幕を閉じました。

治水事業としては、県管理の 6 ダムが再開発も含め完成。河川では、江津市桜江町の小谷川トンネル放水路や、出雲市の平田船川・赤川の捷水路区間の暫定改修、八尾川をはじめとする隠岐の島町の改修事業が完了しました。休止していた出雲市の神戸川や津和野川は平成 18 年 7 月豪雨を契機に一連区間の暫定改修が完了しました。なかなか進まなかった松江市の中川や出雲市の湯谷川・新内藤川支川などが軌道に乗り、現在重点的に進められています。

治水計画も大きな見直しが見られました。松江市橋北地区の松江堀川の治水計画や、十間川の改修計画（差海川放水路計画）は、検討会等を重ね大幅に見直されました。

国の直轄事業としては、斐伊川治水三点セットのうちの 2 ダムと放水路が完成しました。

災害の発生は、県西部の昭和 58 年水害や昭和 63 年水害のような甚大な被害は無かったものの、平成 18 年 7 月の神戸川などの県東部や、平成 25 年 7、8 月の津和野川などの県西部、平成 30 年 7 月の江の川の氾濫は昭和 58 年以来となる大規模なものでした。そして昨夏 7、8 月の大雨は県全域に亘り、平成以降最多の施設災害が発生しました。特に、平成 18 年 7 月は、松江市の佐陀川と神戸川で県内初の「越水させない原形復旧」による河川等災害関連事業が採択され、この経験が後の平成 30 年 7 月の八戸川河川等災害関連事業に繋がりました。

ソフト対策では、平成 13 年や 17 年の水防法の改正により、洪水予報や洪水浸水想定区域の中小河川への拡大や、ハザードマップ作成の義務化など河川情報の発信が拡大されました。河川環境の変化も見られました。平成 8 年から宍道湖からの導水が本格化した松江堀川は、宍道湖と同じ汽水域の生物が大半を占めるなど淡水から汽水に変化し、平成 20 年代後半頃から外来種のミシシippアカミミガメの大量繁殖や、平成 29 年にはシオグサなどの藻類の大量発生が起こるなど、生態系の変化も見られました。

海岸事業も、平成 11 年の海岸法改正により「防護」に「利用」「環境」が加わり、対策工法も平成に入って人工リーフや緩傾斜護岸が主流となりました。

つぎに、この 21 年間の主な出来事を詳しく振り返ってみたいと思います。

【21年間の主な出来事】

◆鹿島マリーナ完成式（平成 14 年 3 月）

漁船やプレジャーボートあわせて約350隻が不法に係留されていた松江市を流れる佐陀川では、河川改修事業、環境整備事業にあわせて第三セクターにより、



県内初の公共マリーナとして約250隻収容できる鹿島マリーナが建設され、平成 14 年 3 月に完成式が行われました。

◆昭和 47 年 7 月水害 浸水位標識設置（平成 14 年 12 月）

県全域にわたって甚大な被害が発生した昭和 47 年 7 月水害から 30 年が経過し、人々の記憶から消えつつあるなか、過去の水害を次世代に引継ぎ、防災意識を向上させるため、昭和 47 年 7 月水害の浸水位標識を、松江市の橋北地区を中心に、照明柱などヘシール 230 枚、公共建物の外壁などヘプレート 35 枚設置しました。のちに、平成 18 年 7 月水害の浸水位標識も追加で設置しています。



◆美田ダム再開発竣工式（平成 15 年 5 月）

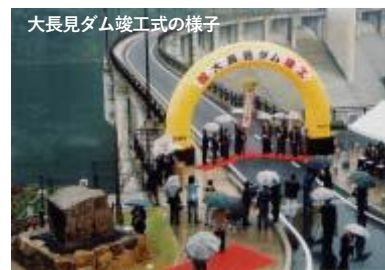
西ノ島町的美田川上流の美田ダムは洪水調節と不特定用水、水道水の確保を目的に昭和 53 年に完成した多目的ダムですが、平成 3 年、平成 5 年と立て続けに洪水が発生し甚大な被害を受けました。



この災害を契機にダム再開発事業に着手し、水道水需要の拡大や平成 6 年に発生した濁水にも対応した正常流量を確保できるダムとして平成 15 年 3 月に完成し、平成 15 年 5 月に竣工式を行いました。

◆大長見ダム竣工式（平成 15 年 10 月）

浜田市を流れる周布川中流部に位置する大長見ダムは洪水調節と正常流量及び水道水の確保を目的とした多目的ダムで、昭和 44 年から調査を行い、昭和 57 年から建設に着手しました。平成 6 年 3 月からはダム本体の工事に着手し、試験湛水を経て平成 15 年 6 月に大長見ダムが完成、平成 15 年 10 月に竣工式を行いました。



◆差海川放水路計画の見直しを提言（平成 17 年 3 月）

十間川改修においては、既計画であった差海川放水路事業が 20 年以上着手できず、平成 16 年 7 月に治水の第一人者の定道成美氏はじめ学識者や地元住民からなる「神西湖流域検討会」が発足。契機洪水となった昭和 39 年、昭和 47 年水害を住民聞き取りにより再現し、13 会場、延べ約 300 人への説明会を経て、基本高水が見直されました。平成 17 年 3 月に従来の差海川放水路案を神西湖の貯留機能を活かした神西湖築堤案とすることで、神西湖の生物環境へ与える影響も最小限となる治水計画へ変更の提言を受け、平成 18 年には河川整備基本方針、平成 20 年には河川整備計画を変更しました。現在、この計画に基づき十間川の拡幅と神西湖の築堤工事を進めています。



◆小谷川トンネル放水路完成式（平成 18 年 6 月）

昭和 47 年と昭和 58 年に甚大な浸水被害を受けた小谷川流域は、昭和 57 年に着手したトンネル放水路(L=941m)が 24 年、約 83 億円の費用をかけ完成し、江の川の築堤・樋門の工事完成とあわせて、平成 18 年 6 月に谷住郷河川改修事業完成式が行われました。



小谷川改修の主目的は自己流改修でありましたが、放水路による流域カットにより内水流域が減少したことで、平成 30 年 7 月をはじめ、近年の江の川増水時の内水対策としても大きな効果を発揮しています。

◆平成 18 年 7 月豪雨（松江・出雲）

7 月 15 日から 19 日にかけて、神戸川流域で総雨量が 400 mm を超えるなど県内の広い範囲で大雨となり、特に松江市や出雲市では多くの被害が発生しました。



松江市では、斐伊川流域に降った大雨（総雨量約 380 mm）により、宍道湖水位が 2.0m 近くまで上昇したため市街地で内水氾濫が発生し、約 1,700 戸の家屋が浸水しました。出雲市では、神戸川が増水し所原町で 4 箇所が破堤、乙立町などで氾濫が発生し、2 名の方が犠牲になるなど甚大な被害が発生しました。



これを受けて、佐陀川と神戸川（乙立町）で県内初の「越水させない原形復旧」による河川等災害関連事業が採択されたほか、松江市の京橋川水門の整備や、休止していた神戸川の所原町の改修事業が災害対策等緊急事業推進費（現在の防災・減災対策等強化事業推進費）によって進められました。

◆益田川ダム・笹倉ダム竣工式（平成 19 年 10 月）

益田川治水ダム建設事業は、洪水調節を目的とした治水専用ダムである益田川ダムの建設と、既得取水の安定確保や河川環境の保全等を目的に利水専用ダムとして笹倉ダムを再開発する事業で、昭和 47 年の水害を契機に計画されました。平成 18 年 4 月に益田川ダムが完成し、平成 19 年 4 月に笹倉ダム再開発工事が完成したことから、事業完了を記念し、平成 19 年 10 月に竣工式が行われました。益田川ダムは国内初の平常時は貯水しないダムであり、完成から 10 年以上経った今でも多くの方が視察に訪れます。



◆平成 19 年 8 月豪雨（隠岐）

8 月 28 日から 31 日にかけて、布施観測所で時間雨量 131 mm を記録するなど、隠岐地方で総雨量 300 mm、時間雨量 100 mm を超える集中豪雨となり、八尾川で氾濫するなど隠岐の島町で 240 戸の浸水被害が発生しました。

これを受けて大久川と油井川で河川等災害関連事業が採択されたほか、八尾川では災害対策等緊急事業推進費が配分されました。



◆「ハートフルしまね」の創設（平成 21 年 4 月）

草刈りなどのボランティアに対する支援制度として、従来の「河川・海岸愛護登録制度」（河川・海岸）とハートフルロードしまね（道路）を統合したうえで、対象施設も公園や港湾等に広げた「ハートフルしまね」が創設されました。



◆平田船川広域河川改修事業竣工記念式（平成 22 年 3 月）

平成 9 年 7 月に家屋浸水 240 戸もの被害が発生した平田船川では、平成 12 年から床上浸水対策特別緊急事業により捷水路区間約 1.3km に着手し平成 17 年 12 月に完成しました。その後の一連区間の完成により、平成 22 年 3 月に桜の記念植樹など竣工記念式が開催されました。



◆斐伊川治水3点セット

斐伊川水系では、県東部に位置する広範な沖積平野の治水安全度を確保する根本的な対策として、以下の3つの柱（いわゆる「3点セット」）を基本とし、整備を進めています。

- ・斐伊川と神戸川の上流部へのダム建設
- ・中流部の斐伊川放水路の建設
- ・下流部の大橋川改修と宍道湖・中海の湖岸堤防整備

このうち、上流部に建設する2つのダム（志津見ダム・尾原ダム）がそれぞれ平成23年と平成24年に完成し、また、中流部に建設する斐伊川放水路が平成25年に完成しました。

現在、残る下流の大橋川改修と湖岸堤防整備について早期に完成するよう関係機関と調整を図りながら進めています。



◆志津見ダム完成（平成23年6月）

神戸川の上流部に建設された志津見ダムは洪水調節と河川環境の保全や工業用水の供給、発電を目的とした多目的ダムで、昭和61年度から建設事業に着手しました。平成16年6月から本体工事に着工し、試験湛水を経て、平成23年6月に完成しました。



出典：出雲河川事務所ウェブサイト

◆尾原ダム完成（平成24年3月）

斐伊川の上流部に建設された尾原ダムは洪水調節と河川環境の保全や水道用水の確保を目的とした多目的ダムで、平成3年度から建設事業に着手しました。平成18年6月から本体工事に着工し、試験湛水を経て、平成24年3月に完成しました。ダム湖は「さくらおろち湖」と命名され、ボート競技などに利用されています。



出典：出雲河川事務所ウェブサイト

◆斐伊川放水路完成（平成25年6月）

中流部で行われた斐伊川放水路事業は斐伊川と神戸川をつなぐ斐伊川放水路の建設と河口から約9km区間の神戸川の拡幅を行うもので、平成6年度から建設事業に着手し、平成25年6月に完成しました。完成以降、斐伊川放水路への分流を17回実施しており、令和3年8月大雨の災害でも効果を発揮しました。



◆平成 25 年 7・8 月豪雨（県西部）

7 月 28 日の午前 2 時から午後 5 時までに津和野観測所で累計雨量 381 mm、最大 60 分雨量 91 mm を記録し、この豪雨により、行方不明者 1 名のほか、全壊 5 棟を含む 200 棟の家屋浸水被害や、JR 山口線及び県道萩津和野線の流失など、甚大な被害が発生しました。

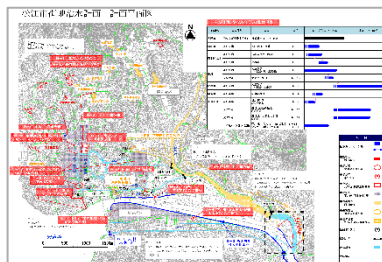
現況流下能力を遥かに上回る出水があった津和野川、名賀川の約 9km 区間では、河川災害復旧助成事業（事業費約 47 億円）が採択され、平成 2 年の高津川以来、23 年ぶりに島根県内で河川災害復旧助成事業を実施することとなりました。

また、8 月 23 日から 25 日にかけて、江津市桜江町で総雨量 474 mm の観測史上最大の雨を記録し、全壊 9 棟を含む 693 棟が浸水被害を受けるなど、浜田市や江津市を中心に甚大な被害が発生しました。



◆「松江市街地治水計画」策定（平成 26 年 9 月）

歴史的景観や観光、水環境等を考慮し、従来の河川改修や内水排除対策に加え、上流のため池や洪水調節池の整備などの流域対策や、市民の自助行動に繋げる減災・水防対策の推進等のソフト対策を併せた「総合的な治水対策」を推進することを目的に、平成 26 年 9 月、島根県と松江市が共同で「松江市街地治水計画」を策定しました。



◆「松江堀川水環境協議会(現:『汽水の松江堀川』魅力アップ協議会)」発足（平成 27 年 7 月）

松江堀川は、水質浄化事業、下水道整備、官民協働で総合的な水質浄化活動に取り組んできた結果、水質が改善し、宍道湖と同様に良好な汽水環境となりました。引き続き、市民・専門家・関係機関と連携し、生態系の把握や啓発活動を行うことで、汽水環境の一層の保全・創出に努め、観光地松江の魅力アップを図ることを目的に、平成 27 年 7 月に県と松江市の関係機関で「松江堀川水環境協議会(現:『汽水の松江堀川』魅力アップ協議会)」を設立しました。

近年は、松江市立第一中学校の小中学校の PTA で構成している任意団体「千鳥のお堀を学ぶ会」の協力を得て、松江堀川で小中学生を対象に生き物調査や水草・藻刈りを行う啓発イベントを開催しています。



◆第二浜田ダム完成式（平成 28 年 11 月）

浜田川総合開発事業のうち、浜田ダム下流に新たに建設する第二浜田ダムが、試験湛水を経て平成 28 年 10 月に完成し、これを記念して、完成式が平成 28 年 11 月に開催されました。

完成式ではセレモニーのなかで、ダム湖命名者表彰も行われました。第二浜田ダムのダム湖の名称は、地域住民に親しまれ愛着を持たれるよう一般公募により決定し、「いわみおろち湖」と命名されました。



◆津和野川・名賀川河川災害復旧助成事業完了（平成 29 年 9 月）

平成 25 年 7 月に発生した豪雨により採択された「津和野川・名賀川河川災害復旧助成事業」のすべての工事が平成 29 年 9 月に完了しました。

名賀川の復旧にあたっては、住民や有識者の意見を踏まえ、SL や城下町津和野の歴史ある街並みに配慮して自然石を用いた護岸を採用しました。

11 月 25 日には、防災祈念式典が開催され、D51 形蒸気機関車が JR 山口線で 44 年ぶりに復活しました。



◆平成 30 年 7 月豪雨（江の川沿川）

7 月 5 日から 7 日にかけて、大雨特別警報が発表された江の川上流の広島県側では、総雨量が 400 mm を超える記録的な豪雨が発生しました。

この雨により、江の川下流の島根県側では、川平水位観測所（江津市）の水位が昭和 47 年に次ぐ高い水位を記録するなど、各地で氾濫が発生し、江の川沿川で約 270 戸もの家屋浸水が発生しました。県管理河川である江の川支川の八戸川も江の川のバックウォーターによる堤防越水により約 40 戸の浸水被害が発生しました。

この被害を受け、八戸川では「越水させない原形復旧」による河川等災害関連事業が採択され、堤防嵩上げを実施することとしました。



◆令和2年7月江の川氾濫（江の川沿川）

7月13日から14日にかけて、江の川流域で約200mmの大雨があり、数日前の雨により江の川水位が高かったことも影響し、江の川下流の島根県側では、川平水位観測所（江津市）で過去4番目となる水位を観測するなど、江の川沿川で再び氾濫が発生しました。この大雨により約100戸の家屋浸水が発生し、矢谷川（川本町谷地区）や田津谷川（江津市桜江町川越（上）地区）、八戸川では、江の川のバックウォーターによりわずか2年の間に2度の浸水被害を受けました。



◆浜田川総合開発事業竣工式（令和2年10月）

浜田川総合開発事業は、浜田川沿川地域の治水・利水対策のため、既存の浜田ダムの再開発を行うとともに、浜田ダム下流へ新たに第二浜田ダムを建設するものです。新設の第二浜田ダムは平成28年10月に完成し、令和2年5月には浜田ダムの再開発が完了したことから、平成5年より進めてきた浜田川総合開発事業がすべて竣工したことを記念して、令和2年10月に竣工式が開催されました。

当日は好天に恵まれ、地元、国土交通省、浜田市、受注者および県の関係者35名が出席し、開催されました。



◆江の川流域治水推進室開所（令和3年4月）

江の川流域ではわずか2年の間に「平成30年7月豪雨」、「令和2年7月豪雨」と2度の豪雨災害を受け、沿川では甚大な被害が発生しました。こうした気候変動等の影響による頻発化、激甚化する自然災害に対し、あらゆる関係者が連携・協働する「流域治水」の考えのもと、これまでの治水対策から転換を図り、ハード・ソフト一体となった事前防災対策を加速化するために、国、県（島根県・広島県）、沿川市町が一体となって流域治水に取り組むための体制として「江の川流域治水推進室」が設置されました。

令和3年4月には「江の川流域治水推進室」が設置される江津市にて、コロナ対策を徹底した上で関係者が一堂に会し、開所式が執り行われました。



◆赤川捷水路竣工式（令和3年5月）

出雲市内を流れる新内藤川流域は、平成9年に床上浸水4棟、床下浸水207棟の被害が発生しました。平成23年度からは10年計画として、新内藤川本川およびその3支川



で重点的に整備を進めてきました。支川の赤川は、現川沿いに家屋が連担していることから、旧 JR 大社線の廃線敷地を利用した捷水路計画により進められ、令和2年度に延長2.3kmの区間の暫定改修が完了し、これを記念して令和3年5月に竣工式が開催されました。

◆令和3年7・8月豪雨（県内全域）

7月は4日から12日にかけて梅雨前線が停滞し、県東部を中心に400mmを超える大雨となり、8月は、台風第9号の影響や11日からの前線の停滞による影響で、県西部や隠岐地方の多いところで600mmを超える大雨となり、県全域で被害が発生しました。



特に、県東部では、松江市や出雲市などの主要都市の平野部での浸水被害や、山間部を中心として護岸決壊などの施設被害が多く発生しました。



県管理河川の施設被害は、松江市、雲南市、出雲市を中心に513箇所、被害額は平成以降で最大となる約100億円にのぼりました。

また、8月12日から3日間に亘り県西部や広島県側で降り続いた雨により、江の川は、わずか3年余りの間に三度氾濫しました。

平成30年から河川等災害関連事業を実施してきた八戸川は、5月末には約1.8km区間において最大5mの堤防嵩上げが完了していたことから越水による浸水被害を防ぎました。

◆上追子排水機場完成（令和3年9月）

国が実施する大橋川改修に合わせ、移設することとなった「上追子排水機場」が令和3年9月に完成しました。

県では排水機場の移設に合わせ、ポンプ容量を既存の5.4m³/sから5.0m³/s増強させ、合計10.4m³/sとし、排水機能を向上させました。

ポンプ設備の運用は令和3年2月から開始しており、令和3年7月の大雨でも浸水被害の軽減に効果を発揮しました。



【平成 13 年から 21 年間の歩み】

年月	県内の動き	年月	県内の動き
H14.3	鹿島マリーナ完成式	H29.6	「神戸川の河川環境等に関する協議会」発足
H14.12	宍道湖中海淡水化事業中止	H29.7	西部に県内初の「大雨特別警報」発表
H15.5	美田ダム再開発竣工式	H29.11	津和野川・名賀川災害助成事業完成記念式典
H15.10	大長見ダム竣工式	H30.7	平成 30 年 7 月豪雨
H17.3	差海川放水路見直し	H31.3	矢原川ダム建設事業の損失補償基準協定調印式
H18.6	島根県水質汚濁防止連絡協議会発足	R2.1	『土木学会デザイン賞 2019』最優秀賞（津和野川・名賀川河川災害復旧助成事業名賀川工区）受賞
H18.6	小谷川トンネル放水路完成式	R2.7	令和 2 年 7 月 江の川氾濫
H18.7	平成 18 年 7 月豪雨	R2.10	浜田川総合開発事業竣工式
H18.8	斐伊川放水路、神戸川一級指定	R3.3	波積ダム定礎式
H19.5	平成 18 年度ダム工学会「技術賞」受賞（益田川ダム）	R3.4	江の川流域治水推進室開所
H19.6	平成 18 年度全健賞受賞（益田川ダム）	R3.5	赤川捷水路完成式
H19.8	平成 19 年 8 月隠岐豪雨	R3.7,8	令和 3 年 7、8 月豪雨
H19.10	益田川ダム・笹倉ダム竣工式	R3.9	上追子排水機場完成
H20.7	神戸川乙立地区河川等災害関連事業完成式		
H21.4	「ハートフルしまね」創設		
H21.7	神戸川乙立地区河川等災害関連事業が全国防災協会技術発表会で最優秀賞を受賞		
H22.3	平田船川承水路竣工記念式		
H22.5	差海川塩分調整堰竣工式		
H22.8	雲南県土整備事務所へ排水ポンプ車配備		
H23.6	志津見ダム完成		
H24.3	尾原ダム完成		
H25.3	「神戸川の朝発電所水利使用に関する調整会議」発足		
H25.6	斐伊川放水路完成		
H25.7,8	平成 25 年 7、8 月豪雨（津和野、浜田）		
H26.9	「松江市街地治水計画」策定		
H27.7	「松江堀川水環境協議会」発足		
H27.9	「矢原川ダム建設事業に係る基本協定」調印式		
H28.3	「神戸川の朝発電所水利使用に関する確認書」締結		
H28.11	第二浜田ダム完成式		
H29.5	「県管理河川に関する減災対策協議会」発足		

【おわりに】

気候変動の影響による水害が頻発していると言われてはいますが、確かに平成 20 年代に入って全国的に大規模な水害が頻発しているように感じます。

島根県でも、平成 18 年、19 年、25 年と大雨による被害が発生しました。特に、平成 19 年 8 月は、隠岐の島町で時間雨量 130 mm という過去に経験したことのない雨量に、当時恐怖を感じたのを覚えています。

また、江の川では、平成 30 年 7 月をはじめ、この 3 年余りの間に三度氾濫するなど、異常気象の影響を強く実感しています。

一方で、昨夏 7 月から 8 月にかけて県全域に亘った大雨は、集中豪雨に対する県東部の中小河川の脆弱さと、長雨に対する大河江の川の水害リスクの高さを如実に表わすなど、島根県の地域的な偏りと特徴を浮き彫りにしたものでありました。

今年は、昭和 47 年 7 月水害からちょうど 50 年という節目の年を迎えます。島根県の河川行政の 50 年を振り返り、今後、さらに頻発化する水害に対し、どう備えていくか課題の年になりそうです。

島根県河川課では、今後も引き続き、河川・海岸に関する話題を提供したいと思います。バックナンバーは河川課ホームページにも掲載していますのでご覧ください。

また、出前講座には以下のホームページから申し込みますのでこちらもご利用ください。

編集者 島根県土木部河川課企画調査グループ

TEL : 0852-22-5647 FAX : 0852-22-5681 mail : kasen@pref.shimane.lg.jp



河川課 トップページ

<https://www.pref.shimane.lg.jp/kasen/>

河川課 しまねの河川と海岸だより HP

<https://www.pref.shimane.lg.jp/infra/river/kasen/tayori/>



出前講座申し込み HP

<https://www.pref.shimane.lg.jp/seisaku/shimanedemaekouza/>

島根県水防情報システム：川の水位・雨量情報や監視カメラが見られます。

PC 版 URL : <https://www.suibou-shimane.jp/pc>

スマホ版 URL : <https://www.suibou-shimane.jp/s>

携帯版 URL : <https://www.suibou-shimane.jp/m>

スマホ版



携帯版



川の水位情報（危機管理型水位計）：洪水時の川の水位が見られます。

PC・スマホ共通 URL : <https://k.river.go.jp/>